

青森放送

活動名	RAB 子どもたちとつながり隊！
実施期間	令和 5 年 7 月～令和 6 年 2 月
実施回数	会場 16 回

【事業実施の成果・課題】

今年度は保育園での読み聞かせを初めて行いました。3 歳～ 5 歳までの幼児向けの読み聞かせは、どれだけ興味を持ってもらえるか、なるべく集中力を切らさず聞いてもらうにはどうしたらいいか...アナウンサーの表現力が試される時間でした。園児たちの表情を見ながら、声の大きさ、読むスピードなどを工夫しました。

小学生とは一緒に声を出したり、身体を動かしながら発声練習をしました。マスクを外して「大きな声を出す事は気持ちいい！」と感じてくれたようです。声を出すことが楽しくなると朗読が楽しくなる！声に出して読みたくなる！そんな変化を期待しながら行いました。読み聞かせの本は、低学年は楽しめる物を、高学年と一緒に考えられる物を選びました。読み終えた後の感想からお話が広がったりもしました。楽しく、そして考えて読むことで主人公の気持ちを読み取ったり、景色の美しさを想像したりしながら表現力も高めていってほしいと思いました。

また、RAB アナウンサーは全員防災士の資格を持っているので「防災授業」も行いました。青森県が発行している「あおもりおまもり手帳」を教材にクイズ形式で児童のみなさんと防災について考えました。「防災」「減災」についての意識をより高めていけるように私たちも情報を通してお手伝いしていきたいと思いました。

今後も読み聞かせ事業を通して子どもたちとつながり、地域に密着した放送局として県民のみなさんのお役に立てるよう私たちも精進していきたいと思っています。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<猪股 南アナウンサー>

発声練習は大きな声を出して思いっきりできた。読み聞かせはじっくり聞いたり、笑い声が聴こえたり一緒に楽しむことができた。

また、青森県が発行する「あおもりおまもり手帳」を見せると、ほぼ全員が見たことがなかった。地震が発生した時どうするか問うと、「机の下にかくれる」や低学年からは「だんごむしのポーズ」と発言があり、実際に見せてもらった。そして、パネルを使って屋外室内のそれぞれの場面で有効な頭の守り方などを説明。さらに、かつて市浦小学校の近くにある十三湖にも津波がきたことを伝え、児童たちが住む地域の災害のリスクについても知ってもらえるように努めた。授業後に感想を聞くと、「おまもり手帳をしっかりと読む」「命を守る行動がわかった」など、児童一人一人が命を守る行動を考え、防災に理解を深めてくれた。

<廣瀬絢南アナウンサー>

はじめに発声や早口言葉を一緒に練習し、大きな声で真剣に取り組んでくれた。面白い本の読み聞かせでは、声を上げて笑ってくれたことが印象的だった。

一方で、少し悲しいお話の時は誰一人私語をせず集中して聴いてくれていた。

また防災教育の時間では「地震が来たときはまずどこを守る？」など、質問形式でともに学びを深めた。

＜鮫島大史アナウンサー＞

学校の規模によっても子どもたちの反応は様々でしたが、一様にアナウンサーが目の前で物語を読み聞かせる機会はなかなかないので、真剣な表情で物語に引き込まれていく子どもたちに「こういう場を提供できてよかった」と感じています。コロナ 5 類移行後に「リアル」に読み聞かせができるということが、教育現場でも大切に感じていただいているようなので、防災関連の話も含めて、今後も直接子どもたちに伝える場を提供していきたいです。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

＜児童の皆さん＞

- ・もともと本が好きだけど、読み聞かせを聞いてももっともっと好きになりました。
- ・いろんな声が出せるのがすごい！楽しかった！
- ・地震の時どうすればいいのかもっと考えたいと思った。
- ・発声練習をして発声のコツがわかった。朗読の時に今日の事を思い出してやってみたい。

＜先生より＞

- ・早口言葉、読み聞かせ、防災教室と沢山の楽しいそしてためになる時間を作っていただき、子どもたちがとても喜んでいました。そして思い出に残る素晴らしい機会となりました。
- ・どちらかといえばおとなしい子が多いが、読み聞かせ会では大きな声で笑いながら聞いていて、それだけ楽しかったのだなと思った。
- ・防災の勉強もためになった。かつて大きな自信によって被害が出た地区なので改めて防災への意識が高まったと思う。
- ・直接本を読んでもらうとても貴重な体験を子どもたちも教員もできた。